4 「非認知能力」・「学習方略」等の質問項目

(1)非認知能力

テストで計測される学力やＩＱなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものです。本調査では**「自制心」「自己効力感」「勤勉性」「やりぬく力」「向社会性」**の５種類について質問しています。

① 自制心	自分の意思で感情や欲望をコントロールする力

（例） イライラしていても人に八つ当たりしない など

【児童生徒質問紙の項目】小学校５年生・中学校１年生に質問

- 授業で必要なものを忘れた
- 他の子たちが話をしているときに、その子たちの邪魔をした
- 何か乱暴なことを言った
- 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった
- 家や学校で頭にきて人や物にあたった
- 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
- きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
- イライラしているときに、先生や家の人（兄弟姉妹は除きます）に口答えをした

（出典）Tsukayama,E.,Duckworth, A. L.,& Kim,B.(2013).
Domain-specific impulsivity in school-age children.
Developmental Science, 16, 879-893.

② 自己効力感	自分はそれが実行できるという期待や自信

（例） 難しい問題でも自分ならできると考えられる など

【児童生徒質問紙の項目】すべての学年に質問

- 授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている
- 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う
- 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う
- 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う
- 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う
- 学校でよい成績をとることができるだろうと思う
- 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う
- 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっている方だと思う

（出典）P. Pintrich, et al.(1991)
A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire(MSLQ)

③　勤勉性	やるべきことをきちんとやることができる力

（例）　宿題が出されたらきちんと終わらせる　など

【児童生徒質問紙の項目】小学校４年生に質問

- うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります
- ものごとは楽しみながらがんばってやります
- 自分がやるべきことにはきちんとかかわります
- 授業中は自分がやっていることに集中します
- 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします
- ルールや順番は守ります
- だれかと約束をしたら、それを守ります
- 自分の部屋や机のまわりはちらかっています
- 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません
- 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
- 宿題を終わらせてから、遊びます
- 気が散ってしまうことはあまりありません
- やらないといけないことはきちんとやります

（出典）Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C.(2003). A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood. Personality and Individual Differences, 34(4), 645-664.

④　やりぬく力	自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力

（例）　失敗を乗り越えられる　など

【児童生徒質問紙の項目】中学校２年生に質問

- 大きな課題をやりとげるために、失敗をのりこえてきました
- 新しい考えや計画を思いつくと、前のことからは気がそれてしまうことがあります
- 興味をもっていることや関心のあることは、毎年変わります
- 失敗しても、やる気がなくなってしまうことはありません
- 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます
- 何事にもよくがんばるほうです
- いったん目標を決めてから、そのあと別の目標に変えることがよくあります
- 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けることができません
- 始めたことは何でも最後まで終わらせます
- 何年もかかるような目標をやりとげてきました
- 数か月ごとに、新しいことに興味をもちます
- まじめにコツコツとやるタイプです

（出典）Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M, D., & Kelly, D. R.(2007). Grit: Perseverance and passion for long-term goals. Journal of Personality and Social Psychology, 92(6), 1087-1101.

⑤　向社会性	外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力

（例）　相手の気持ちを考える、親切にする　など

【児童生徒質問紙の項目】小学校６年生に質問

- 私は、誰に対しても親切にするようにしている。私は、その人の気持ちをよく考える
- 私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する
- 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける
- 私は、年下の子たちに対して、やさしくしている
- 私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする

（出典）Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note.
Journal of Child Psychology and Psychiatry, 38, 581-586.
Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version.
European Child and Adolescent Psychiatry, 7, 125-130.

非認知能力の把握

○　児童生徒質問紙を用いて、非認知能力を以下の表のとおり把握

○　児童生徒は非認知能力についての同一の質問に継続して回答

	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9（予定） 2027
中２	①自制心 ②自己効力感	③勤勉性 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感	④やり抜く力 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感
中１	③勤勉性 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感	④やり抜く力 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感
小６	⑤向社会性 ②自己効力感	④やり抜く力 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感
小５	④やり抜く力 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感	③勤勉性 ②自己効力感
小４	①自制心 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感	①自制心 ②自己効力感	③勤勉性 ②自己効力感	⑤向社会性 ②自己効力感

(2)学習方略

児童生徒が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）のことです。ふくしま学力調査では**「柔軟的方略」「プランニング方略」「作業方略」「認知的方略」「努力調整方略」**の５つに分類しています。

① 柔軟的方略	**自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動**

（例） 勉強の順番を変えたり、わからないところを重点的に学習したりする など

【児童生徒質問紙の項目】
- 勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する
- 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる
- 勉強しているときに、やった内容を覚えているかどうかを確かめる
- 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える

② プランニング方略	**計画的に学習に取り組む活動**

（例） 勉強を始める前に計画を立てる など

【児童生徒質問紙の項目】
- 勉強するときは、最初に計画を立ててから始める
- 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確かめる
- 勉強するときは、自分で決めた計画に沿って行う
- 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見直す

③ 作業方略	**ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動**

（例） 大切なところを繰り返し書く など

【児童生徒質問紙の項目】
- 勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく
- 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている
- 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる
- 勉強で大切なところは、繰り返して書くなどして覚える

④ 認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動

（例） 勉強した内容を自分の言葉で理解する など

【児童生徒質問紙の項目】

- 勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える
- 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする
- 勉強していてわからないところがあったら、先生に聞く
- 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する

⑤ 努力調整方略	「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動

（例） わからないところも諦めずに継続して学習する など

【児童生徒質問紙の項目】

- 学校の勉強をしているとき、とてもめんどうでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう
- 今やっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるために一生懸命がんばる
- 授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単なところだけ勉強する
- 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する

（出典）心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉,(2007).,
心理測定尺度集/堀洋道監修. サイエンス社

(3)主体的･対話的で深い学び

学級における「主体的・対話的で深い学び」の状況を数値化した値

国語、算数・数学について

【児童生徒質問紙の項目】　※学年により、質問項目の教科が異なっています

去年の○○（※）の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか

- 授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと
- 授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したこと
- わからないことなどを質問しやすい雰囲気で授業が行われたこと
- 教材やワークシートがあることで、学習しやすくなったこと
- グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
- 課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりもてるようになったこと
- 話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと
- 授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと
- 授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと
- 授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じたこと

※　「主体的・対話的で深い学び」についての質問は、同一の学年集団に対して、同一の教科について継続して質問することで、変容を確認できるようにしています。具体的には、今年度の小学校４年生、小学校６年生、中学校２年生については、経年で国語について質問し、今年度の小学校５年生、中学校１年生については、経年で算数・数学について質問しています。

英語について

【児童生徒質問紙の項目】　中学校２年生に質問

去年の英語の授業について、当てはまるものを選んでください。

- 授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したこと
- グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
- 授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと

(4)帳票40の活用方法

帳票４０は、各学校に送付したデータの中に入っています。帳票４０を活用すると、学年や学級の児童生徒の学力のレベル・学力の伸び・質問調査項目の数値から、気になる児童生徒を見付けたり、状態を把握したりすることができます。分析で把握した気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援することに役立ちます。

帳票４０には、国語と算数・数学の学力のレベルや学力の伸びと併せて**「非認知能力」**、**「学習方略」**、**「主体的・対話的で深い学び」**の児童生徒質問の回答状況及び前年度からの変化が示されています。これらは、ふくしま学力調査から見られる児童生徒の一つの側面であり、「学力のレベル」、「学力の伸び」と同じように目を向けてほしい内容です。「非認知能力」、「学習方略」、「主体的・対話的で深い学び」については、成長に伴い自分に対して厳しく評価するようになる児童生徒もいます。数値の上下だけで判断せず、複数の教員による日常の見取りも含めて数値を見ることが大切です。

40　学校用

令和８年度ふくしま学力調査（小学校６年生）

学力分析データ(学力のレベル･伸び･学習方略･非認知)児童生徒別

〇〇〇立△△中学校

当該児童Ａは、学習方略の「作業方略」と非認知能力の「向社会性」において、昨年度から数値が上がっています。また、Ｒ８の数値で見ると、「主体的・対話的で深い学びの実施」が 2.7 であるのに対して、「自己効力感」が 5.0 と高くなっています。これらの数値から見える特徴と、日常の見取りとを併せて、気になる児童生徒の状態等を分析し、授業での支援に役立てます。

R7→R8の変化量　　R8の数値

	算数・数学			R7→R8(変化量)								R8結果							
	R8レベル	昨年度からの学力の伸び	R7レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力		主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
					柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
	9-C	3	8-C	0.8	-0.4	-0.8	-0.3	0.8	0.5	1.3	2.6	4.0	3.3	3.3	3.5	3.5	3.5	4.9	5.0
	8-C	-2	6-A	-0.8	-0.3	0.5	1.0	0.5	-0.5	-0.8	0.8	2.8	2.8	2.8	2.8	3.3	3.0	1.9	3.0
該当児童A	8-A	0	8-A	1.1	1.0	0.8	1.8	-0.5	-0.5	0.0	2.4	2.7	3.0	2.8	3.0	2.8	4.0	5.0	4.0
	9-C	1	8-A	-0.3	0.3	0.8	0.0	0.3	-0.3	-0.1	1.2	4.2	4.0	3.5	3.0	4.5	3.8	3.5	4.0
	5-B	-1	5-A	0.4	0.8	1.5	1.5	0.3	-0.3	0.1	0.2	4.6	4.3	4.5	4.0	4.3	3.3	4.0	1.6
	8-B	2	7-A	0.2	-0.3	0.3	-0.8	-1.0	-0.8	0.0	0.2	4.8	3.8	4.0	3.5	3.5	4.3	3.8	4.8
	4-B	0	4-B	0.7	0.8	2.0	2.0	0.5	1.0	0.1	0.6	4.1	3.8	3.8	3.5	3.8	4.3	2.8	2.8
	7-C	1	6-A	-0.3	0.0	-0.8	0.5	-0.1	0.0	0.9	1.2	3.8	3.3	3.0	3.5	3.7	3.5	3.3	3.4
	5-B	-1	5-A	-0.3	0.3	0.0	0.5	-0.5	-0.8	0.1	3.6	4.3	4.8	5.0	4.8	4.5	4.3	4.1	4.6
該当児童B	5-C	3	4-C	0.0	-0.5	-1.3	0.0	-0.5	-0.8	0.1	0.0	4.8	4.0	3.8	4.8	4.0	4.3	4.3	1.0

当該児童Ｂは、Ｒ８の数値で見ると、学習方略の「作業方略」の数値が 4.8 と高い一方で、非認知能力の「向社会性」が 1.0 と低いことが特徴的です。学習を進める上では「作業方略」を意識させることで学習の効果を高め、「向社会性」が必要な活動では、他者と関わることへの負担を軽減しつつ、他者と関わりながら活動するよさを感じさせていくことなどの支援が考えられます。